

スポーツで友情を深める 姉妹都市の海老名市、登別市とスポーツ交流大会



7月27～28日の2日間、本市の柔道選抜選手10人と役員8人が登別市を訪れ、「登別・白石スポーツ交流大会」に参加しました。28日の試合では、登別市と白石市選抜2チームが団体戦で対戦。2試合が行われ1勝1分で白石市選抜が勝利しました。また、8月3日には、「海老名・白石スポーツ交流大会」が白石川サッカー公園で開催。海老名市選抜A・Bと、本市のFC白石ジュニアーズ、大平サッカークラブの4チームが、20分ハーフで各2試合を行い、2勝2分けで海老名市が勝利しました。

猛暑の中行われたそれぞれの大会。選手たちは暑さに負けず、スポーツを通じて友情を深めていました。



1～3_登別市とのスポーツ交流。本市の選手たちが登別市を訪れ、柔道で対戦した。
4_海老名市とのスポーツ交流。海老名市の選手たちが本市を訪れ、サッカーで対戦した。

片倉小十郎と陸奥ゆかりの武将たち 白石城天守閣で戦国武将画展



1_オープニングセレモニーに出席した正子さん(左)。今回の武将画展は、平成24年9月、正子さんが東北旅行に来た際、戦国武将隊奥州片倉組の片倉小十郎景綱からの声掛けが縁。武将画展には、正子さんの作品が好きで聖地巡礼に来たという歴史ファンなど、多くの人たちが詰め掛けた。
2_智勇を兼ね備え、独眼竜伊達政宗の参謀として活躍。笛の名手としても知られ、能く風流を愛した初代片倉小十郎を描いた作品。

7月20日～8月18日までの30日間、武将イラストの第一人者として知られる東京の絵巻作家正子公也さんが描いた戦国武将画展が、白石城天守閣で開かれました。会場には、白石城主片倉小十郎景綱や仙台藩祖伊達政宗など、陸奥ゆかりの武将をコンピュータグラフィックスで描いたイラストやフィギュア約30展が展示されました。時代背景から人物の内面までを鮮明に描き出した作品ばかりで、初日からたくさんの人たちでにぎわいました。

7月20日に行われたオープニングセレモニーに出席した正子さんは、「白石城も東日本大震災で大きな被害を受けました。少しでも震災からの復興の力になればうれしいです」と話していました。

走る広告塔として大きな期待！ 原付きバイクに交付する「ご当地ナンバープレート」の交付がスタート



原付きバイクに交付するナンバープレートに市独自のオリジナルデザインを施した「ご当地ナンバープレート」の交付が8月1日からスタートしました。

初日は次々に市民が交付手続きに訪れ、この日だけで67枚のナンバープレートを交付しました。交付第1号となったのは、齋藤明さん(大鷹沢三沢)。齋藤さんは午前8時過ぎ、110ccのナンバーを変更するため市役所を訪れ、「ポチ武者こじゅーろうのナンバープレートに交換したくて早めに来ました。下一桁が「1」のナンバーを受け取ることができてとてもうれしいです」と話してくれました。

8月2日には、配達などに使用するバイク全36台に「ご当地ナンバープレート」を導入した白石郵便局で出発式が行われました。大和田尚局長は、「走る広告塔として白石市のPRに努めるとともに、地域に優しい運転を実践し、交通死亡事故ゼロに取り組んでいきます」と、あいさつしました。

1_白石郵便局で行われた出発式、2_交付第1号となった齋藤さんに、ご当地ナンバープレートを交付、3_50cc以下1番乗りの工藤美佐子さん(福岡蔵本)。「キャラクターやデザインがすごくいい。バイクでいろいろな所を走ります」と笑顔！

ご当地ナンバープレート

対象車種は、排気量50cc以下、90cc以下、125cc以下の3種類で、交付枚数は50cc以下が800枚、90cc以下と125cc以下は各100枚の計1,000枚です。交付手数料は無料。新規登録のほか、従来のナンバープレートからの変更も可能です。詳しくは、市役所1階税務課(☎22-1313)までお問い合わせください。

水環境の大切さを学ぶ 白川小奥で小川と仲良くなろう

8月8日、白川小奥地区環境資源保全隊(佐藤勇二代表)主催の「小川と仲良くなろう」が白川小奥地区で開催され、白川3区・5区の子どもの会の小学生とその保護者約40人が参加しました。この日は、土手川などで採取した水の汚染度合いを試験薬で調べたり、水温や川幅、川の水の速さ、周りの草花の様子などを調べたりしました。その後、網を使って小川に入り生き物を採取。参加した児童は、「ヤゴやゲンゴロウ、メダカ、ドジョウ、カワエビなどたくさんの生き物を見つけました。きれいな川に生息する生き物だと知ってとてもよかったです」と笑顔で話してくれました。



▲土手川で生き物を採取。水環境の大切さを学びました。